

研修医通信 vol.93 2018 /11

市立四日市病院 2年目初期研修医 寺尾和一
指導医 増田考祐先生



市立四日市病院研修医2年目の寺尾和一と申します。11月から1ヶ月間、正確には2週間半の短い期間ですが、紀南病院内科で研修させていただきました。なれないカルテを操作しながら患者様のことや次の日のスケジュールなどを考えながら過ごした1か月は本当にあっという間で、当初は勉強も観光もあれこれと考えていましたがほとんど果たすことなく終わりそうなのが心残りです。

「感染症のマネジメントを」と意気込んで研修に臨みましたが、実際は増田先生からの質問に口をもごつかせ、知らない菌名が次々と出てきては唖然とし、いつもこっそりスマホを使って追いかけていました。少し教科書をかじった程度とは比べ物にならないほどに臨床の場で活かせる経験ができた実感しています。一方で、初めて連れてっていただいた二木島での釣りでは何度も自分の手袋と皮膚を釣り上げ、スタンダードプレコーションの甘さを認識させられました。

また初日に森本先生に誘っていただいて(拉致されて)参加した院内BLS講習会では、きれいな看護師さんたちのまえてマネキンへの挿管を失敗し、バラ色地域実習が初日で頓挫したことが今でも悔やまれます。自分の勝負強さが足りないこともそうですが、将来急性期の第一線で働きたいと考えている私にとっては消防署の見学や、今週末のDMAT講習会も含めて僻地の救急現場、取り組みを知る貴重な機会となりました。

来週1週間を神島診療所、桃取診療所の離島研修を行って私の地域実習は終了しますが、四日市では体験できない貴重な経験尽くしでした。来年度以降、一脳神経外科医として経験を活かせるよう精進し、また旅行などでここに戻ってこれたらと思います。

最後に一緒に1ヶ月間過ごした伊藤先生、最初の飲み会で飲んだくれた自分と仲良くしていただきありがとうございました。研修環境も異なる動機と切磋琢磨できた時間は非常に自分のためになりました。

東京大学医学部附属病院 2年目初期研修医
伊藤ありさ
指導医 世古口知丈 先生



東京大学医学部附属病院の初期研修医2年、
伊藤ありさと申します。

11月の一か月間、紀南病院で地域研修をさせて頂きました。指導医の世古口先生をはじめ先生や看護師の方々、事務の方々等、たくさんの方々の優しさと温かさで、有意義な研修を行うことができました。ありがとうございました。

救急外来・病棟での研修では、来院時から退院するまで継続して担当させて頂くことができました。大学病院では来院時から元気に帰るまでずっと担当させて頂く機会はあまり多くなかったのが貴重な経験となったと思います。ご高齢の患者様が多いこともあり、家族の介護のことなど、自宅で生活していく上で生じる問題とも関わるのができたのは非常に大切な経験となりました。

紀和診療所で往診にも同行させて頂きました。元気であっても自身では診療所まで来られない方、寝たきりの方やその家族の方々のところへ行きました。みなさん先生が来るのを非常に楽しみにしていらっやっやっ嬉しそうに話すのを拝見して、身体の健康だけでなく心の健康も守っていること、離れて暮らす家族の生活や安心も守っていることを感じる事ができ、地域医療の魅力を感じる事ができました。

消防署研修では、救急隊への入電から病院到着の流れを教えて頂き、119番通報の音声も聞かせて頂きました。119番通報の音声では、通報者がパニックになっているため会話がうまく成立しない様子が感じられました。そんな中でも、救急隊の方が落ち着かせて状況把握をしていらっやっやっ落ち着かせる様子、パニックの方を落ち着かせてその時できる処置をしてもらうように促している様子がよくわかりました。救急隊到着までに時間を要することもあり、救急隊の方の言葉によって、家族が安心できる様子や患者様の救命後のQOLが変わっていくことを感じました。医療を支えている姿を垣間見ることができ、貴重な経験になりました。

病院の内外でたくさん経験をさせて頂き、積極的に参加できるようにご配慮いただいてありがとうございました。東京とは離れていますが、また紀南病院や地域の方々とお会いするのを楽しみにしております。一ヶ月間ありがとうございました。

一ヶ月ご一緒させていただいた寺尾先生、一緒に研修できてとても楽しかったです。大学病院と地域の市中病院の違いや、働き方について同期だからこそ聞けることもたくさんありました。ありがとうございました。